

# 官民の役割分担と連携

離職者訓練

在職者訓練

学卒者訓練

ものづくり分野中心

IT・事務系等  
非ものづくり分野中心

地域の民間との役割分担の下、ものづくり分野については、公共職業能力開発施設で実施。  
非ものづくり分野については、専修学校・教育訓練企業等の民間教育訓練機関を活用した委託訓練を実施。

民間との役割分担の下、ものづくり分野については、公共職業能力開発施設で実施。  
非ものづくり分野については、企業へ、訓練費用等を助成。

民間との役割分担の下、ものづくり分野については、公共職業能力開発施設で実施。

公共職業能力開発施設

離職者訓練の委託

主な委託先 ※

- ・株式会社等 69%
- ・専修・各種学校 20%

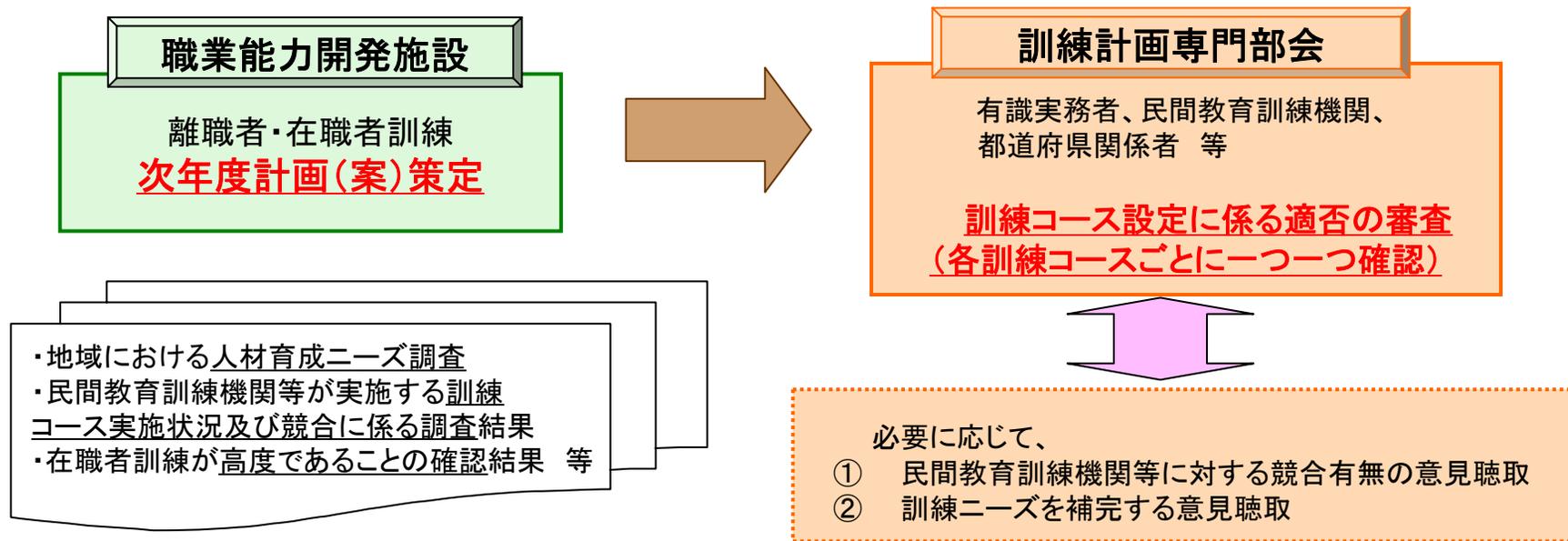
企業への訓練費用等の助成

専修学校、  
教育訓練企業等の  
民間教育訓練機関

※10都道府県におけるサンプル調査

# 民間との役割分担の徹底などによる訓練コースの見直し

- 各施設から半径40km圏内において、民間教育訓練機関等が実施する訓練コースとの競合がないか、訓練ニーズを踏まえた訓練設定としているか等訓練料の適否について、各都道府県に設置された「訓練計画専門部会」における審査に基づき決定。

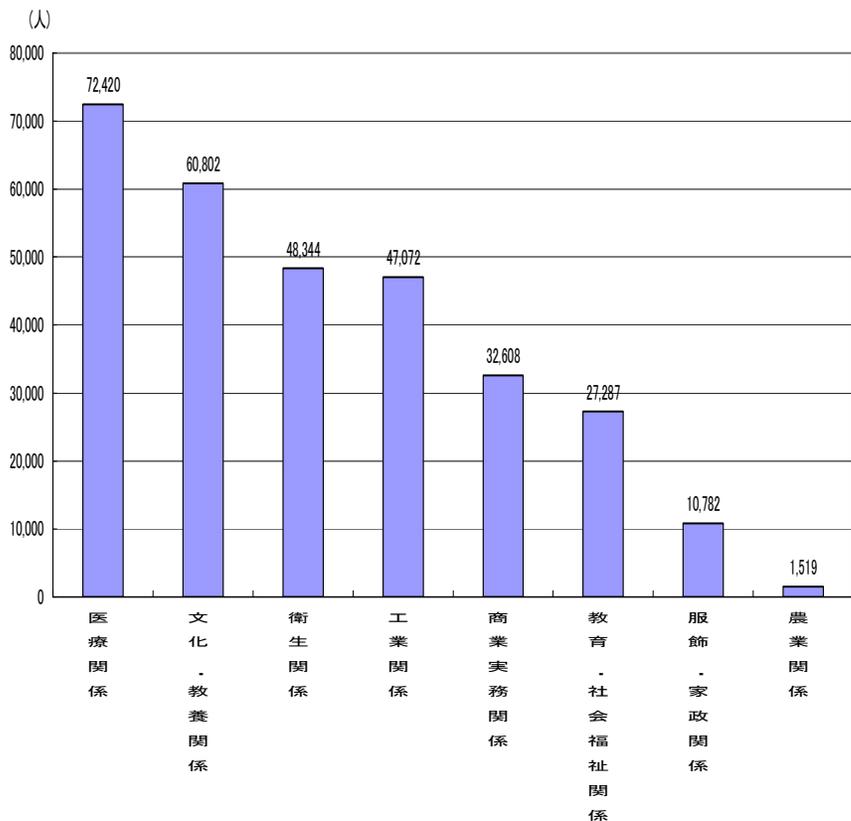


- 民間教育訓練機関等が実施する訓練との競合が確認された訓練コースは改廃、地域の民間で実施していないものに特化。

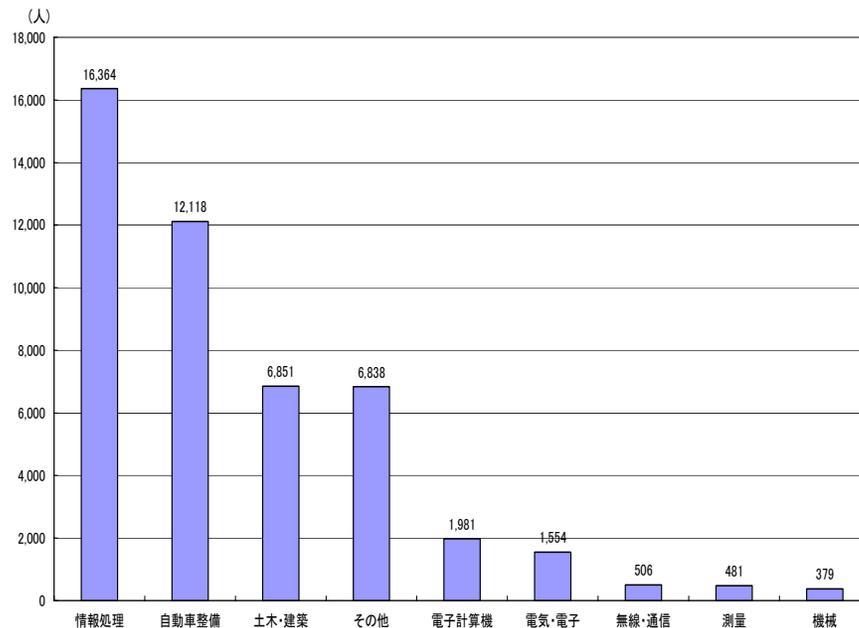
## 専修学校分野別入学者数

○ 専修学校の入学者数についてみると、医療関係が最も多く、次いで、文化・教養関係、衛生関係、工業関係の順になっている。

専修学校分野別入学者数(全区分)



専修学校分野別入学者数(工業関係区分)



## 役割分担

- **国（雇用・能力開発機構）**は、雇用対策の観点から、**セーフティネットとしての離転職者の早期再就職**を図るための職業訓練を実施。
- 主として在職者を中心に、**高度・先導的な職業訓練を開発し、普及**させるとともに、**自ら当該訓練を実施**。
- **地方公共団体は**、地域住民サービスの観点から、**地域の実情に応じた職業訓練を行う役割**。
- こうした職業訓練を実施するに当たっては、産業施策や福祉施策など関連施策と連携。

## 連携

- 国と地方の役割分担を踏まえつつ、効果的な職業能力開発行政を推進するため、両者は密接に連携を図り、**職業訓練コースの設定等について必要な調整**。
- 若者、障害者、母子家庭の母、生活保護受給者等に対する職業能力開発施策については、都道府県のみならず、**市町村も含め連携**を進めること等により、これらの者の地域における職業的自立を促進。

## 雇用・能力開発機構

- ※職業能力開発促進センター(62施設)
- ※職業能力開発大学校・短期大学校等(24施設)

雇用対策の観点から、セーフティネットとしての離転職者の早期再就職を図るための職業訓練を行い、また、高度・先導的な職業訓練を開発し、普及させる。

### 離職者訓練

- ・主にもものづくり分野が中心で民間にはできない訓練
  - ・離職者の早期再就職を実現する訓練
- (例) 金属加工科、電気設備科、生産システム技術科
- 平成18年度受講者 **約13万3千人**
- 就職率 → 81.6%(施設内訓練) 68.9%(委託訓練)

### 在職者訓練

- ものづくり分野を中心に真に高度なもののみ限定した訓練
- (例) チタンのTIG溶接施工と検査技術
- 平成18年度受講者 → 約8万2千人

### 学卒者訓練

- 職業に必要な高度で専門的かつ応用的な技能・知識を習得させるための長期課程の訓練(高卒者等2年間)
- (例) 生産技術科、制御技術科、電子技術科
- 平成18年度受講者 **約8千人**
- 就職率 → 98.3%

## 都道府県

- ※職業能力開発校(178施設)
- ※職業能力開発短期大学校(9施設)

地域産業の人材ニーズや職業訓練ニーズをきめ細かく把握しつつ、これに対応した職業訓練を行う等、地域の実情に応じた職業能力開発を推進し、地方公共団体としての産業施策や福祉施策と一体となり、関係機関との連携を図りつつ、雇用の創出や安定に向けた取組を実施する。

### 離職者訓練

- 地域産業の人材ニーズや職業訓練ニーズに対応した訓練(主な訓練例) 溶接科、ビルメンテナンス科、造園科(地域の実情に応じた訓練例) 旅館科・陶磁器製造科、造船溶接技術科
- 平成18年度受講者数 **約3万9千人**
- 就職率 → 75.2%(施設内訓練) 65.6%(委託訓練)

### 在職者訓練

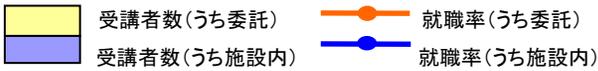
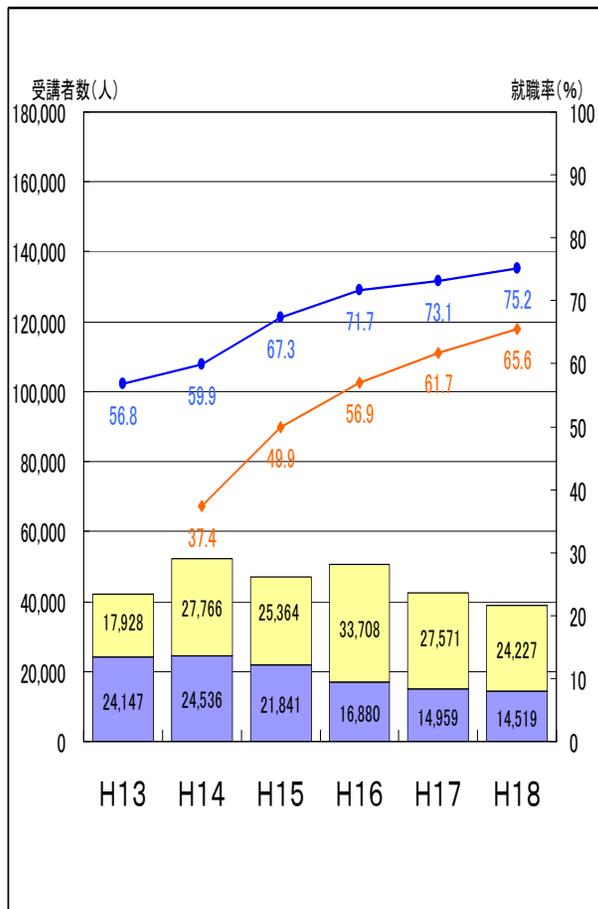
- 地域の人材ニーズを踏まえ、地域の実情に応じた訓練(主な訓練例) 電気工事科、機械製図科(地域の実情に応じた訓練例) 酪農科、観光科
- 平成18年度受講者数 → 約6万1千人

### 学卒者訓練

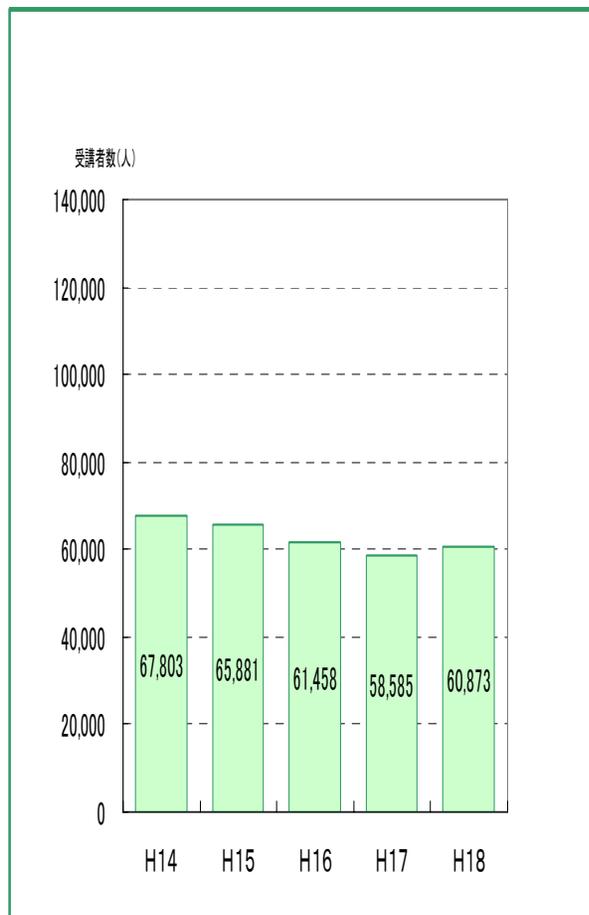
- 職業に必要な基礎的な技術・知識を習得させるための長期課程の訓練(高卒者等1年間、中卒者等2年間)
- (主な訓練例) 建築科、機械加工科(地域の実情に応じた訓練例) ホテル・旅館・レストラン科、タオル技術科
- 平成18年度受講者 **約1万5千人**
- 就職率 → 92.6%

# 都道府県における公共職業訓練実施状況 (離職者訓練・在職者訓練・学卒者訓練)

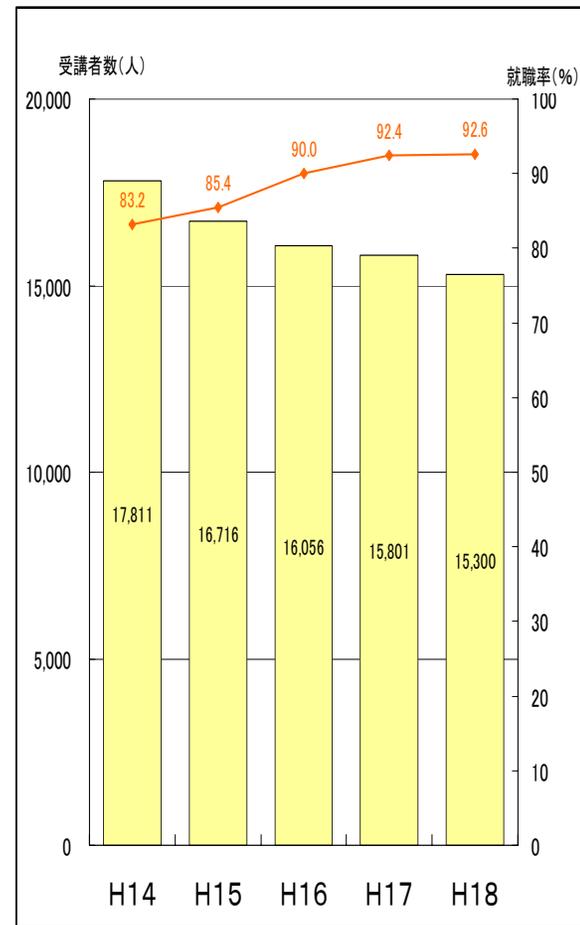
## 離職者訓練



## 在職者訓練



## 学卒者訓練



※委託訓練の就職率は、平成14年度から調査を行っている。

公共職業能力開発施設（都道府県）の施設数の推移

